こうりん

世界遺産　ストーンヘンジ（イギリス）

新年あけまして
おめでとうございます

昨年も色々なことがありました。その一つに秋のお彼岸で、初めて行った音楽法要があります。

キリスト教会で歌われる賛美歌のような歌が、仏教にもあったらいいなと、以前から思っていましたが、この度出会った「新しいお勤め」は斬新で、我々が馴染んできた西洋音楽で作られており、お寺での法要に新風を吹き込めるものと信じて、研鑽を進めていきたいと思っています。

音楽を通じて、たくさんの人とご縁がありました。

思えば宗教に音楽は不可欠のものです。

人の心に直接訴えかけて行く音、響き、心をこめて奏でる音はでた瞬間に消え去るものですが、確実に心のひだに入り込みます。

楽器の演奏にしても、歌や読経にしても、自らの心ありようや精進がそのまま空間に広がっていきます。

私たちが唱える経典も、お釈迦さまがお話になったお声です。

今の時代にもその響きに佛様の慈悲が表れています。

悩み、苦しむ私たちへの救いは、天地自然、宇宙に偏在する永遠の響きにあります。

その音に響き合える自分でありたいと願っています。

第 46 号　　こうりん　　平成 19 年 1 月 1 日

無量寺コンサート　2006、11、25

作ってみよう精進料理

{浄土宗かるな} より

材　料（４人分）

豆腐	２丁
かぶ	中２個
山菜　（好みで２、３種）	適量
上新粉	適量
葛（片栗粉）	30g
■　精進出汁	
干ししいたけ	２枚
昆布	10g
炒り大豆	10g
水	1.3 ℓ
■　鍋出汁	
精進出汁１ℓに	
薄口醤油 15cc, 濃口醤油 5cc	
塩 5g を加える。	

揚げ出汁豆腐山菜みぞれ煮

作り方

1. 豆腐は食べやすい大きさに切り、軽く水を切って上新粉を付け、高温の油で揚げる。

2. 山菜は茹でたあと水にさらしてアクを抜く。

3. 2. を精進出汁 300cc に塩、醤油を加えたものに漬し下味をつける。

4. 煮立てた鍋出汁に、すりおろしたカブを入れて軽くかきまぜ、揚げたての豆腐を加える。

5.30cc の水でといた葛（片栗粉）をかけてとろみをつけ、3. と山椒の葉を散らす。

説相箱

死の連続性

チベット死者の書をかいつまんで見てきました。この経典は二千五百年ほど前に書かれたものです。死の直前から四十九日にわたり読まれ続けますが、絶対者による救済の書ではありません。死者の意識に向かって、何度もくりかえして丁寧に授けられますが、最後に覚るのは死者本人の力なのです。長い経典の最後は死者への励ましのことばで終わっています。

現代社会は死を忘れた社会、封印した世界だと前に書きました。それゆえに迷い、苦しみ、本当の幸せとはなにかを求めてゆくときに、佛教の叡智「心の連続性を、生の連続性」が今こそ必要です。

今日、多くの日本人が病院で、死を恐れながら死んで行きます。とても希望のない惨めな状態です。佛教には死を平和に受け入れる思想があります。

このことについて、ダライ・ラマは次のように述べています。

「根本的にいかなる問題があっても大切なのは、問題に対するあなたの心構えです。たとえばあなたが大きな問題に直面しているとしましょう。あなたが正しい心構えをもって問題に向かえば、問題そのものは変わらなくても、心構えゆえに問題の大きさが減じて見えるのです。

悲劇的な出来事が起きたとしましょう」。その際、ただ一つの角度からしか見なかったり、その問題にしか目がゆかなくなると、かえって自分の手に負えない問題のように思え出し、堪え難い苦しみを味わうはめになります。逆に同じ問題を別の角度から眺め、もっと大きな問題と比べてみれば、問題の大きさが大幅に減じたように思えてくるものです。同じ悲劇に直面していても、あなたの心構えが広くなったのです。

死についても同じことが言えます。死への心構えを人生の一部に組み込まなければいけません。生老病死すべてが、私たちの人生の一部なのです。また来世をどう考えるかにも多くよっています。もし生の連続性を受け入れたならば、死は一つの出来事にすぎず、服を着替えるのと変わりありません。あなたは着ていた服が古び、すりきれると、それを捨てて新たな服をまとうでしょう。それと同じようにこの古い肉体がもはや正しく機能しんくなったら、新たな肉体に着替えるのです。

参考文献
チベット死者の書
著者　河邑　厚徳　林　由香
日本放送出版協会刊

過去帳作成についてのお願い

皆様ご存知のように、無量寺は久留米空襲により、伽藍を始め一切のものが焼失してしまいました。

お寺にとって重症な書類のひとつである過去帳も灰となってしまったそうです。

その為、お檀家各家のご先祖の記録が残っていないのが現状でありました。

戦後亡くなられた方々の記録はありますが、現在おられる戸主の方との続き柄などが不明な方の記録もかなりあります。ここ 40 年間ほどのものはかなりはっきりしております。

先代俊海上人や先先代学翁上人も過去帳の再作成には尽力しておりましたが、道半ばでした。

私も住職就任以来家別過去帳の作成を行ってまいりました。コンピューターを使用して入力してましりまして、現在までに解っている分については一通り記入をおえました。この記録を正確に残す為にお檀家のみなさまに見ていただいて確認させていただきたいと思います。同封の封筒に各家の過去帳を入れておりますので、ご確認をしていただきたいと思います。

故人の命日、戒名、喪主名、喪主との続き柄等見て下さい。入力ミスなどもあるかとおもいますので、訂正してお寺に提出して頂きますようおねがいします。

檀信徒各位

御忌法要の御案内

聖　名、時下厳冬の候、ご尊家ご一統様ますますご清祥の事と存じ、お慶び申上げます。

例年１月の「御忌法要」を迎えることになりました。

日本のお念佛の元祖、浄土宗開祖「法然上人」の第７９６回忌のお祥月命日にあたる１月 25 日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。

ご多忙の折り柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合せご参詣くださいますよう、ご案内申上げます。　　合　掌

平成１９年上浣

無量寺住職　堤　俊翁　拝

※期　日　１月２５日（木）午後１時よりご回向、布教

※布教師　総本山知恩院布教師・島根県向西寺住職
山上　光俊　上人

※ご回向料　１霊に付き金１，０００円以上御志納下さい。
※お供え米、お供え米料　随意ご志納下さい。
ご本尊様のお供え、お花代等にさせて戴きます。

お願い

墓地へご参詣のみなさまへ　枯れたお花などは墓地奥の焼却炉へ塵かごがあります。

納骨堂へご参詣の皆様へ　お供えはお持ち帰り下さい。